

会員の皆様、今回も多くの玉稿を誠にありがとうございます。

コロナ感染症との闘いはもうすぐ2年半となります。この間正月もゴールデンウィークも無く懸命に発熱外来、PCR検査、ワクチン接種、高齢者施設の往診に明け暮れ、最近では遠隔診療も行っています。会議はほとんどWeb会議となり私の周りの環境は随分変わりました。今回の会報を読むと様々な会議でコロナ感染症対策が多岐に渡って議論されている事がわかります。日々のたゆまない努力がいずれはコロナ禍を克服すると信じています。想定外の出来事が続き、かなり体力的にも辛いですが頑張ってください。会員の先生方をはじめ多くの方がこの難局に心を一つに頑張ればきっと明るい未来がやってくる。少々古いですがワン・チームの気持ちが大切だと思う。

東日本大震災など様々な自然災害の時にも絆で助け合い、いたわり合って私たちは耐え抜き乗り越えてきました。コロナは私たちにソーシャル・ディスタンスを強いてきましたが心の絆は不変で、むしろ強固になったと思います。

昨今最も心を痛めているのが、ロシアによるウクライナ侵攻です。文化的親交もある兄弟の

ような両国が悲惨な殺し合いをしているのは地獄としか言いようがありません。多数の民間人も犠牲となり、日々の報道はこの時代にこのような侵略戦争が起こりうるという信じがたい現実を見せつけています。様々な自然災害や未知の感染症に立ち向かう為に人は心の絆を武器に闘っていたはずなのに、ウクライナで起きている戦争は人の心を荒廃させるばかりです。人の最も強大な武器は心の連帯であり、それがあればどのような悲惨な災害にも人は必ず勝利するはずなのに。戦争はその大切な人の心を蝕んでしまう。憎しみは憎しみしか生まないし、憎悪は憎悪を拡大させるだけでこの戦争に勝者は存在しない。一秒でも早くこの戦争を止めて欲しい。憎しみの連鎖は国境を越え、世界中に拡大しつづつあります。そしてこの憎しみの連鎖は世代も超えて次の世代へと引き継がれていくはず、終わりの無い憎しみの連鎖が時間も空間も越えて何処までも広がっていくのは地獄を見ている様です。一秒でも早くこの戦争を止め、憎しみの連鎖を止めなくてはならない。私たちは傍観者ではられません。

広報委員 玉井 修